

校長室から（生徒会誌へ寄稿）

## ぼくらが学び続けなければならない理由 活気ある東部中を続けるために

藤田 浩史

「ああ、今日も無事に終わった。さて、明日の予定は？・・・」  
と考えていました。今日のような明日が続くことが当たり前  
のように考えていたし思っていました。そんな日常が続いて  
いた世界が一変しました。2020年は世界的な規模でパン  
デミックが起きた年として歴史に刻まれることは間違いあ  
りません。私たちはそんな世界に「共に」生きているのです。

思春期まっただ中の君たちの目には今の世界はどう映っ  
ているのだろうか。君たちのしなやかな感性はこの状況をど  
う感じているのだろうか。少なくとも、東部中生のみなさん  
の日頃の姿は大変立派であり、自分も含めたいわゆる大人世  
代の対応以上に冷静で落ち着いた言動をしていると私は思  
っています。一ヶ月半の休校後からの学校生活は、今までに  
ないいくつかの制約の中で送らざるを得ない中でしたが、下  
を向くことなく明るく誠実に対応してくれました。みなさん  
のおかげもあって、大きな混乱が起きることなく今まで来ら  
れています。また、みなさんがつくりだしている活動は、そ  
う、あの中体連上伊那大会前のサプライズ応援や、苦難の中  
で実施した「第五十二回すず竹祭」の姿に結集できます。仕  
組みややり方をよく考え吟味し工夫したことはもちろんで  
すが、それ以上に感じるのは、みなさんのとびきりすてきな  
笑顔、表情であり声（の力）であり、しぐさやつぶやき、「か  
らだ」のすばらしさなのです。みなさんを安心させ励まし落  
ち着いた生活を送るように促さなければならない私の方が、  
逆にみなさんから励ましや力をいただいたように思います。

「本当にありがとう」、と言いたい。

このパンデミックの状況の中で今まで考えてこなかった根源的な問いが露呈したともいえます。三学期の始業式で問いかけた「学校って何だろう」という問いもその一つであり、これからもずっと考え続けていかなければならないことと思います。少なくとも今の自分は「誰でも安心して過ごせる場所」「誰もが力を発揮しやすい場所」そして「みんなが学べる場所」にしたいと考えています。みなさんも学ぶことの必要性や大事さは感じていることと思います。

今もってこのパンデミックは終息の兆しさえも見せないでいます。今後、更に続くような状況を思うとき、ますます様々なことを考え、多くのさまざまな人々と協議し深く広く考えていくことが大事になると思います。広く深く学ぶことが大事になると思うのです。

「活気あふれる躍動感ある東部中に」いつも私はそう願っています。そう思えるのは、今のみなさんが明るく活気があり、動いてくれているからでもあるのです。先輩達の思いを受け継ぎ、脈々と流れる東部中学校のソウル、魂(たましい)が在ると思っているからです。今の困難な社会状況の中でよりよく生き抜くために、共にここ「すず竹の学舎」で魂を合わせて学び合える喜びを感じながら、共に歩いて行きましょう。